

# 2024年6月期 第2四半期 決算補足説明資料

2024年2月14日  
株式会社オカムラ食品工業 (2938)



I. 当社グループについて

II. 2024年6月期 第2四半期業績（連結）

III. 2024年6月期 通期業績見通し

IV. 参考資料

# I. 当社グループについて

## (1) 会社概要

(2) 外部環境 ~生食用サーモンの大きな可能性~

(3) 当社グループの特徴と強み

(4) 今後の成長戦略



社名	株式会社オカムラ食品工業 (Okamura Foods Co., Ltd.)
本社	青森県青森市八重田1-6-11
代表者	代表取締役社長兼CEO 岡村 恒一 代表取締役副社長兼COO 八木康次
設立	1971年8月
資本金	1,080百万円 (2023年12月末)
従業員数	830名 (連結、2023年6月末)
連結子会社数	9社

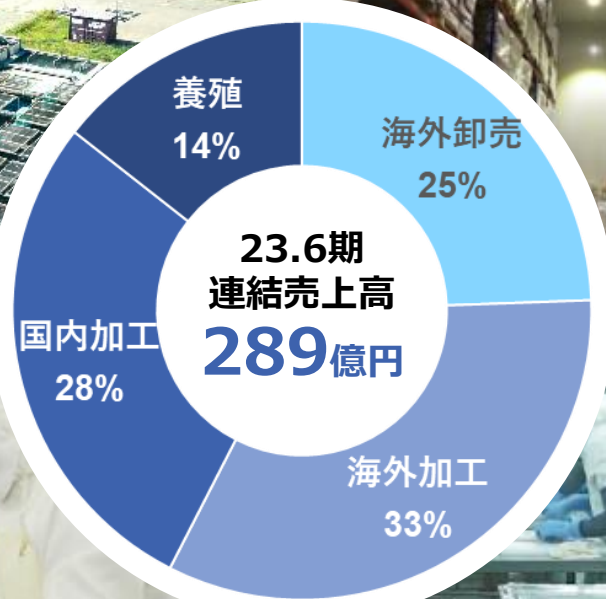
## 事業内容及び売上構成

サーモンのグローバルサプライチェーンを網羅する4つの事業を展開

**養殖事業** 売上高：41億円 セグメント利益：8億円



**海外卸売事業** 売上高：70億円 セグメント利益：5億円



**国内加工事業** 売上高：81億円 セグメント利益：14億円



**海外加工事業** 売上高：95億円 セグメント利益：10億円

## 主要製品紹介

セミドレスから加工品まで幅広くラインナップし、売上の90%以上がサーモン関連製品

### 養殖事業



青森サーモン生鮮セミドレス  
(頭付き内臓取り)

### 国内加工事業



Musholm A/S魚卵原料から  
製造したイクラ製品

### 海外加工事業



青森サーモン  
生ハラスライス



外部仕入原料のサーモン  
ハラス寿司スライス製品



青森サーモンフィーレ



第一工場で製造した数の子製品



オカムラキッチン(市販用焼煮魚商品)

## 沿革

食品加工業からスタートし、サーモンのサプライチェーンの担い手に成長

### 設立

魚卵・成魚の加工

1971年

1990年

ムソン社

デンマークのMusholm A/Sから  
冷凍トラウト魚卵を輸入開始

ベトナム

パートナー工場  
寿司ネタ用サーモン加工開始

2003年

2005年

養殖事業

Musholm A/Sを  
M&A

コールド・チェーン

シンガポールに販売拠点設置  
超低温倉庫、低温配送車を導入

2015年

2017年

国内初の生食用サーモン大規模養殖

日本サーモンファーム株式会社 (JSF) 設立

ミャンマー

自社工場で寿司ネタ用サーモン加工開始

ASC認証※

国内サーモン養殖事業で  
初の認証取得

2019年

2023年

東証スタンダード  
市場に上場

国内加工事業

海外加工事業

養殖事業

海外卸売事業

※ 水産養殖管理協議会 (Aquaculture Stewardship Council) が管理運営する養殖に関する国際認証制度で、養殖場が自然環境の汚染や資源の過剰利用を行っておらず、その養殖事業に持続可能性が認められることを認証するもの

## 事業の全体像

サーモンを中心とした垂直統合型ビジネスモデルで、グローバルに事業を展開  
養殖事業の更なる拡大により、安定したサプライチェーンの実現を目指す





## 拠点・グループ

世界8ヶ国に拠点・グループ会社を展開

### デンマーク

Musholm Loejstrup Dambrug



### 東京

オカムラ食品工業東京本社

### 青森

オカムラ食品工業

日本サーモンファーム



### ミャンマー

Okamura Trading Myanmar



### 台湾

Okamura Trading Taiwan

### ベトナム

Okamura Trading Vietnam

### シンガポール

Okamura Trading Singapore



### タイ

Okamura Trading (Thailand)

### マレーシア

Xenka Trading (M)

● 養殖事業拠点

● 国内加工事業拠点

● 海外加工事業拠点

● 海外卸売事業拠点

### 連結子会社9社

- 日本サーモンファーム株式会社
- Musholm A/S
- Loejstrup Dambrug A/S
- Okamura Trading Myanmar Co., Ltd.
- Okamura Trading Vietnam CO., Ltd.
- Okamura Trading Singapore Pte., Ltd.
- Xenka Trading (M) Sdn. Bhd.
- Okamura Trading Taiwan Co., Ltd.
- Okamura Trading (Thailand) Co., Ltd.

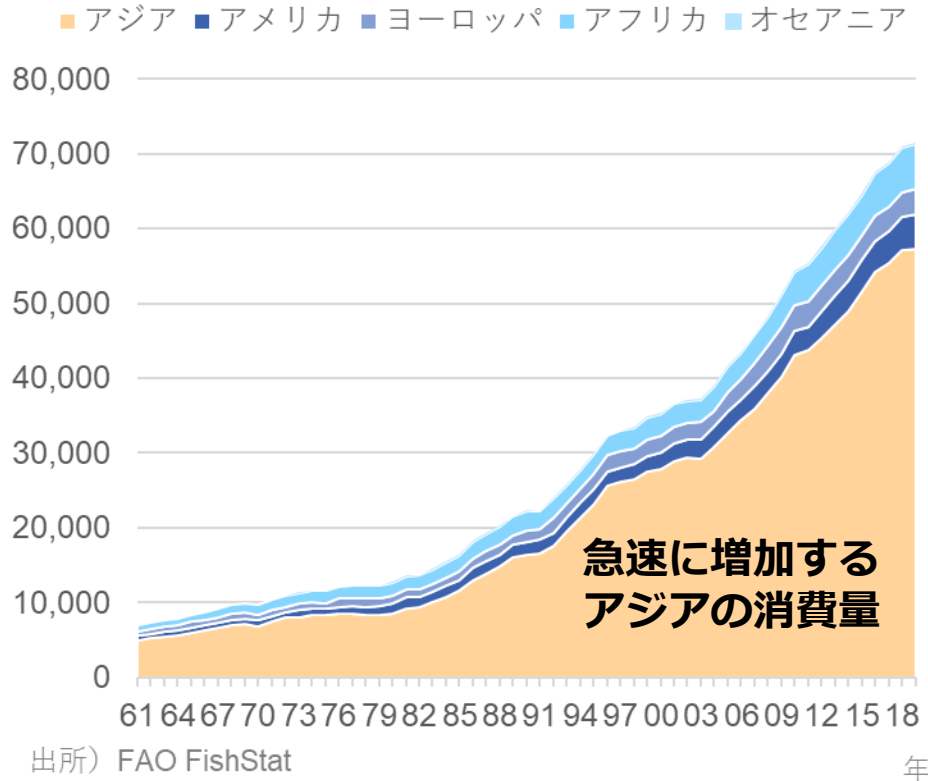
# I. 当社グループについて

- (1) 会社概要
- (2) 外部環境 ~生食用サーモンの大きな可能性~
- (3) 当社グループの特徴と強み
- (4) 今後の成長戦略

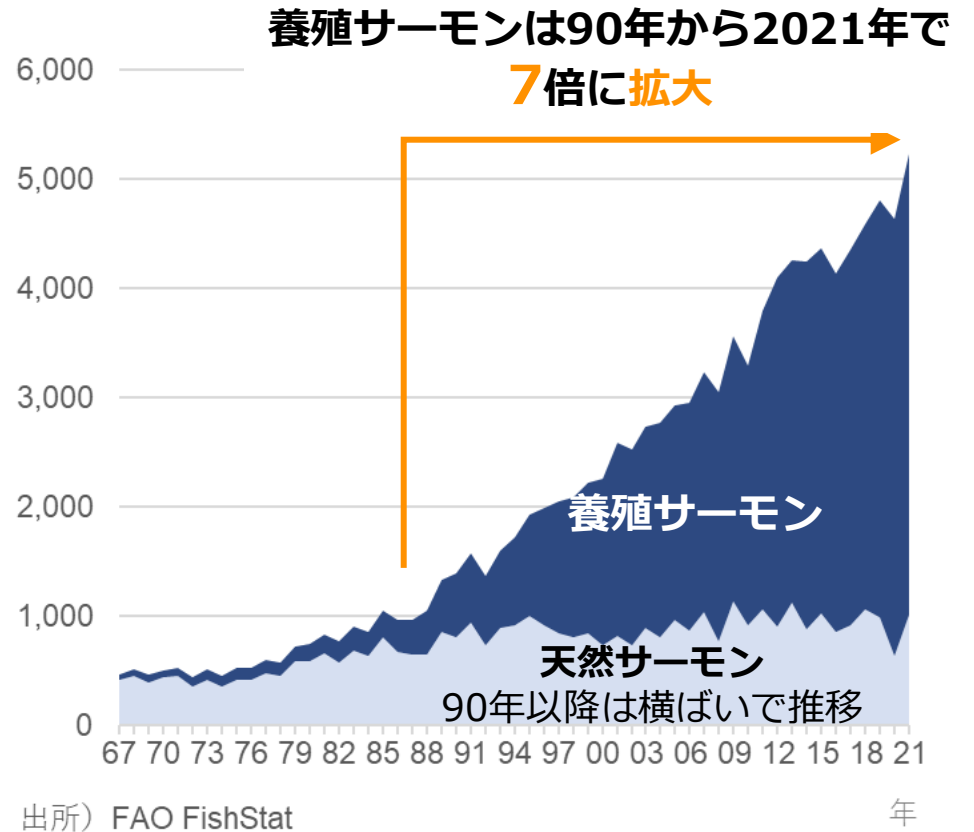


- 需要が急拡大するアジア市場がけん引役となり、養殖サーモンは全世界で大きく伸びてきた
- しかしながら養殖大国（ノルウェー、チリ）における養殖適地の開発は既に概ね行われていることから、今後の養殖量拡大のペースは、これまでとは異なってくると予想される

### □ エリア別魚類需要の推移 (千トン)

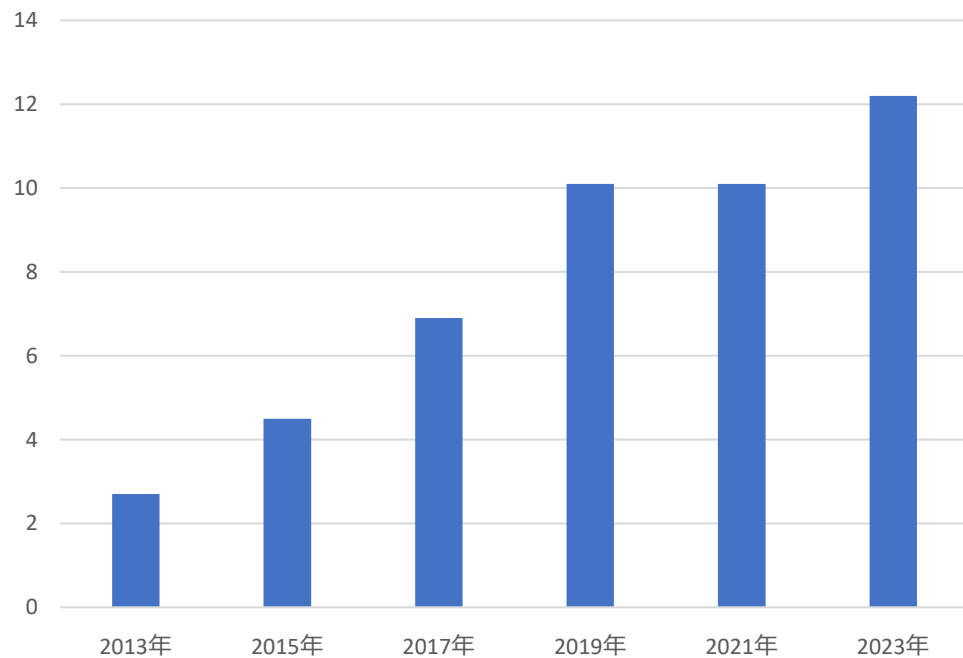


### □ 世界のサーモン生産量の推移 (千トン)



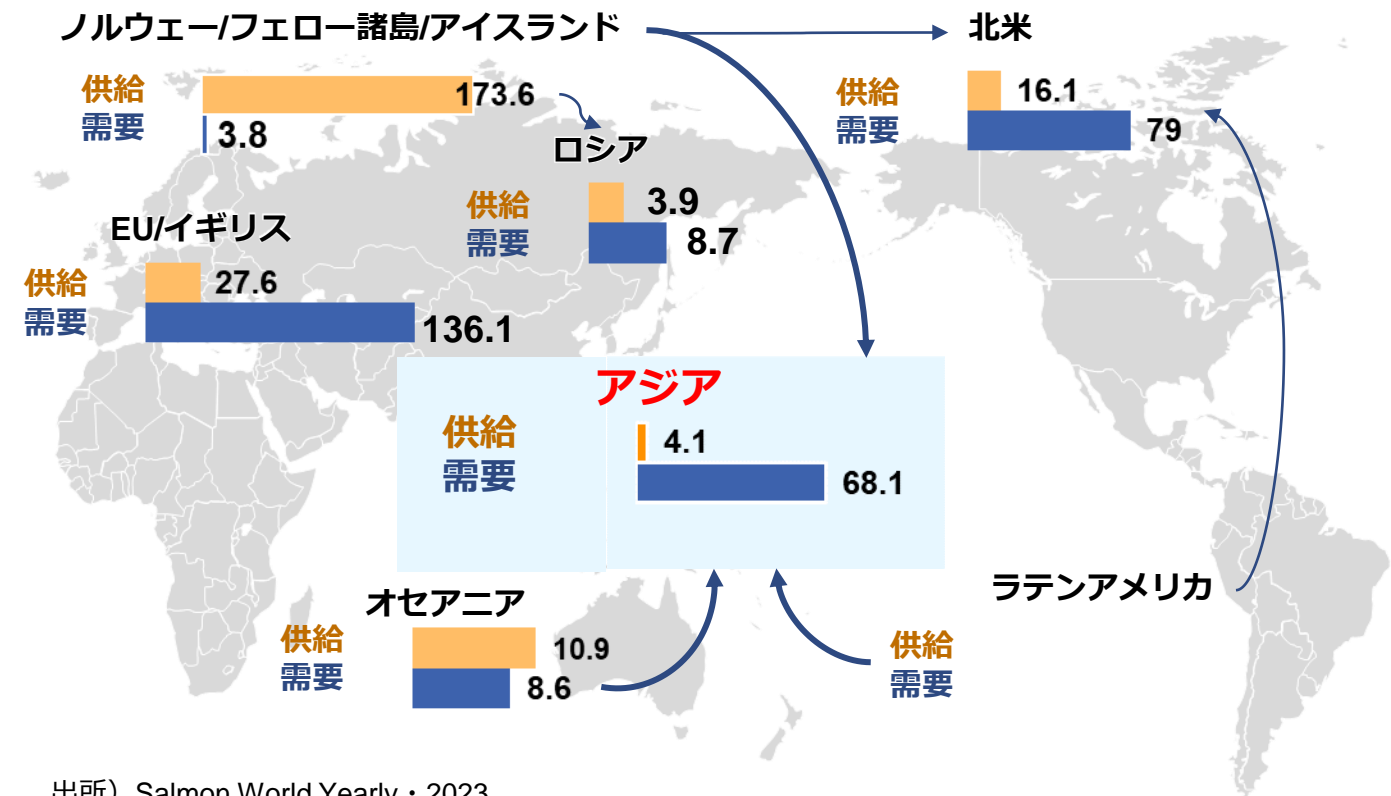
- アジア全体の日本食レストランの店舗数は12万店を突破。需要は引き続き拡大
- それに対して、養殖大国である北欧・南米からの供給の大きな伸びは今後期待しにくい

### □ アジアの日本食レストラン数の推移（万店）



出所) 外務省調べにより、農林水産省において推計

### □ 世界の養殖サーモン供給量と市場規模（万トン）



出所) Salmon World Yearly・2023

# I. 当社グループについて

- (1) 会社概要
- (2) 外部環境 ~生食用サーモンの大きな可能性~
- (3) 当社グループの特徴と強み**
- (4) 今後の成長戦略



**強み①：生食用サーモンの大規模養殖を実現**

**強み②：海外卸売における顧客の課題を垂直統合モデルで解決**

強み①：生食用サーモンの大規模養殖を実現 ～資本の論理では解決できない2つの課題～

1

地域社会のバックアップ°

- ・ 水利権
- ・ 区画漁業権

2

ノウハウ・技術

国内の大規模養殖に立ちはだかる**2**つの課題

強み①：生食用サーモンの大規模養殖を実現 ～「当社だからこそ」の強みで課題を克服～

2 ノウハウ・技術

1 地域社会のバックアップ  
・水利権  
・区画漁業権

- I. **青森の企業だからこそ**可能になる  
地元資源の活用
- II. **デンマーク子会社を持つからこそ**得られる、  
養殖の先進技術

## オカムラ食品工業

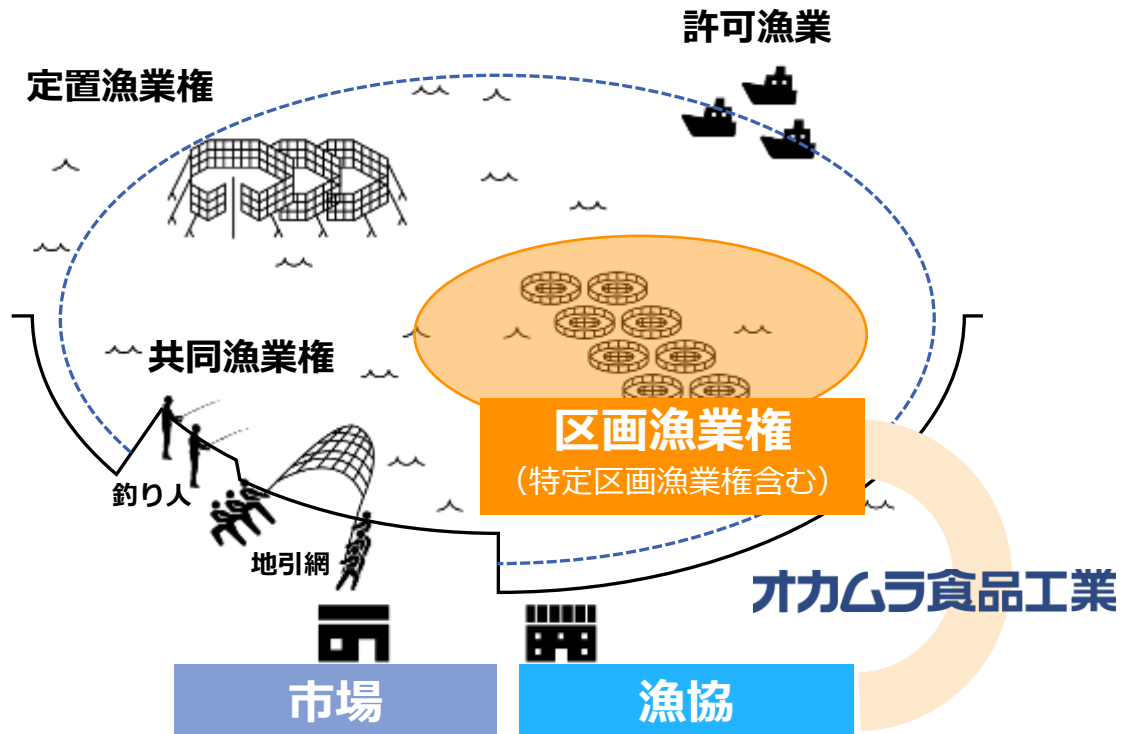


## 強み①：生食用サーモンの大規模養殖を実現 ～青森の企業だからこそ可能になる地元資源の活用～

サーモン養殖に適した青森の海で、地元のサポートを受けながら養殖事業を拡大

### 社会環境

地元漁協の組合員として区画漁業権を行使



### 自然環境

青森はサーモン養殖に適している

#### 海況

- 17度以下の海水温
- 適度な潮流

オカムラ食品工業

#### 事業環境

- 養殖を促進する国策の後押し※

※ 2020年施行「改正漁業法」

**強み①：生食用サーモンの大規模養殖を実現** ~デンマーク子会社を持つからこそ得られる、養殖の先進技術~

大規模設備を用い、かつ、孵化から成魚まで一気通貫した生産体制を構築

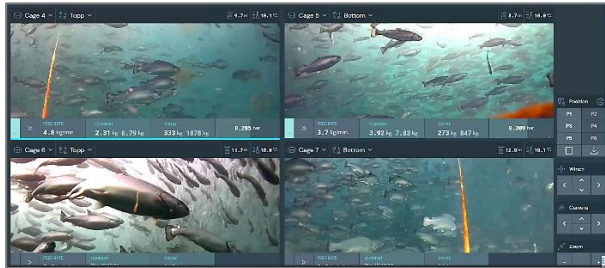


## 強み①：生食用サーモンの大規模養殖を実現 ~デンマーク子会社を持つからこそ得られる、養殖の先進技術~

事例①：日本初のバージ船を導入し、遠隔自動給餌で安定的な給餌や給餌コスト低減を実現

### ● 遠隔自動給餌

- 天候に左右されず、安全かつ最適なタイミングで給餌
- 水中モニタリングにより、魚群解析
- 食欲旺盛となる水温を把握
- 自動で酸素供給



### ● バージ船

- 1km~2km沖合の生簀に隣接
- 250tの配合飼料（2週間分）を貯蔵
- 発電機能を有する



● FCR（増肉係数）\*1 **3%改善**



● 養殖期間（12月~6月）の給餌日数 **24%up**



● 給餌人員数 **80%down**



### ● その他のメリット

- 養殖現場の安全性が飛躍的に向上
- 一般社員やIT人材など、養殖人員の多様化
- 魚体の大型化

\*1FCR：Feed Conversion Ratio 体重を1キロ増加させるために必要な餌の量を表す指標

\*2ビフォー：22.6期実績、アフター：23.6期実績

**強み①：生食用サーモンの大規模養殖を実現** ~デンマーク子会社を持つからこそ得られる、養殖の先進技術~

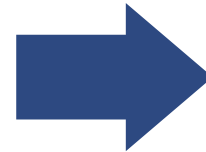
**事例②：屋外循環式中間養殖場により、生産量拡大に向けたボトルネックを解消**

## デンマークの先進技術

- 高密度養殖技術体系
- IoT活用による酸素供給自動化システム
- ろ過システム



青森県今別町 循環式中間養殖場



## 中間養殖場の課題

環境負荷対策

水利権対策

自然災害対策

- 先進技術を導入した養殖場で課題を克服

## 強み②：海外卸売における顧客の課題を垂直統合モデルで解決

日本品質と高い専門性が評価され、アジアの外食企業を中心に業績を拡大

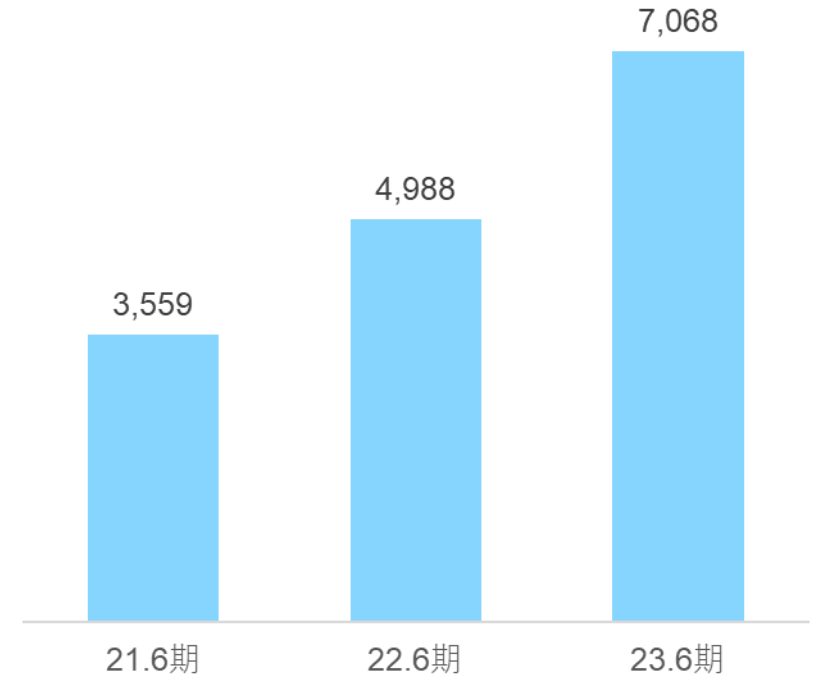
アジアの顧客ニーズ（回転寿司チェーン、日本食レストラン、スーパー等）

商品企画提案

正確な物流

カスタマイズ対応

### 海外卸売事業 売上推移（百万円）



#### 当社のソリューション

- **日本品質**
  - 配送クオリティ
  - タイムリーな納期対応
  - 安定供給
- **高い専門性**
  - カスタマイズ対応
  - 多品種小ロット対応

#### 垂直統合モデルの強み

- **原材料の安定確保**
  - 養殖による自社原料
- **加工機能**
  - 国内加工（青森）
  - 海外加工（ミャンマー、ベトナム）
- **卸拠点**
  - シンガポール、マレーシア、台湾、タイ

# I. 当社グループについて

- (1) 会社概要
- (2) 外部環境 ~生食用サーモンの大きな可能性~
- (3) 当社グループの特徴と強み
- (4) 今後の成長戦略**



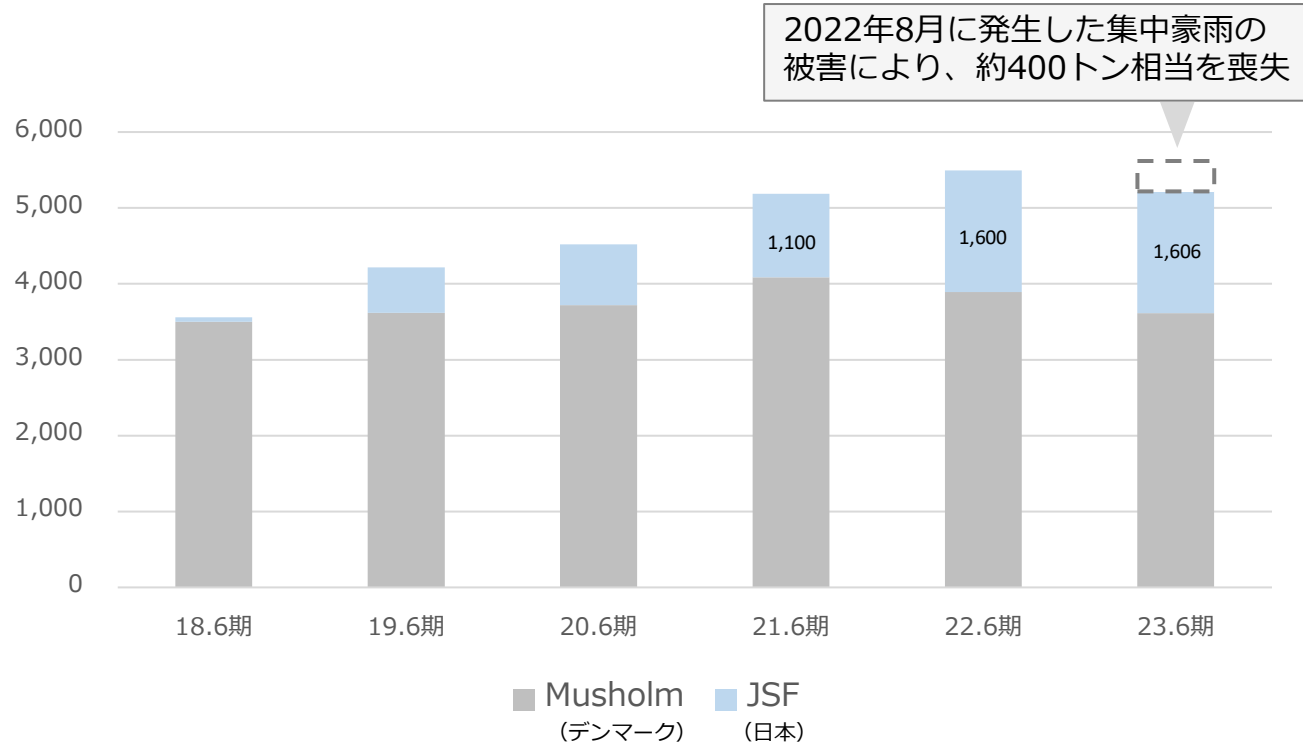
**戦略①：国内のサーモン養殖量の拡大**

**戦略②：アジア卸売事業の拡大**

## 戦略①：国内のサーモン養殖量の拡大

IPOでの調達資金も活用し、養殖量拡大に向けた設備投資を加速させる

### □ 国内外のサーモン生産量推移 (トン)



### ＜当期の主な設備投資＞

- 中間養殖場の拡張 (青森県)
- 海面養殖場の拡張 (青森県)



増設工事中の循環式中間養殖場  
(青森県今別町)



## 戦略②：アジア卸売事業の拡大

事業エリアを拡大し、成長を続けるアジアの日本食マーケットの伸びをしっかりとキャッチ

### 1 商品提案力の強化

専門性の追求

人員増強

### 2 物流力の強化

卸インフラの増強

超低温コンテナ、配送トラック

### 3 カスタマイズ力の強化

工場リノベーション

多品種小ロット対応の強化

## Ⅱ. 2024年6月期 第2四半期業績（連結）



- サマリー
- Q2業績サマリー
- 営業利益増減要因分析（連結）
- セグメント情報サマリー
- セグメント別売上高増減
- セグメント別営業利益増減
- 要因別セグメント利益増減（養殖事業）
- 要因別セグメント利益増減（国内加工事業）
- 要因別セグメント利益増減（海外加工事業）
- 要因別セグメント利益増減（海外卸売事業）
- 地域別セグメント利益増減（海外卸売事業）
- 貸借対照表増減サマリー
- 棚卸資産増減内容
- 設備投資の進捗状況

### サマリー

#### 2024年6月期 第2四半期実績

#### 売上高

- 第2四半期（Q2）時点では、売上高は全体としては前期比増収で推移。
- 特に海外加工事業については、売価上昇が増収の主要因。

#### 営業利益

- 営業利益は、主に国内加工事業と海外卸売事業の減益が影響し、全体でも前年同期比で減益。
- 国内加工事業の減益は魚卵相場の調整局面に起因するもの。海外卸売事業の減益はヒト・モノへの投資の影響が大きい。
- ただし国内加工事業の利益率低下の程度は、徐々に改善されてきていて、それが通期予想の上方修正に繋がっている（「Ⅲ. 2024年6月期 通期業績見通し」参照）。

※なお当社グループにおいては、売上、利益ともに季節変動がある点には注意が必要（参考資料1～3参照）

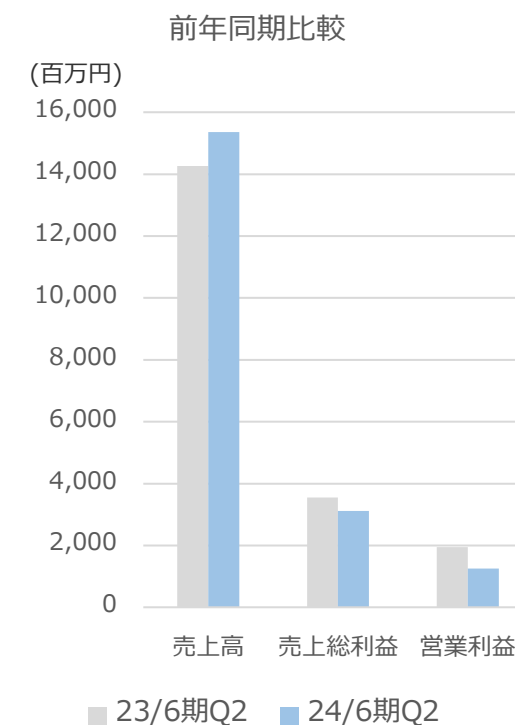
#### 設備投資の進捗

- 当社の成長戦略である国内養殖量の拡大に向けて、ボトルネックとなっている中間養殖場への設備投資を実施。予定通り完成し、当期の養殖は今のところ概ね計画通りに進捗。

## Q2業績サマリー

Q2時点では、売上高は全体としては前期比増収で推移  
営業利益は、主に国内加工と海外卸売の減益が影響し、全体でも前Q2比で減益

(単位：百万円)	23/6期 Q2	24/6期 Q2	増減	増減率 (%)	<参考> 24/6期通期見込 (※)
売上高	14,264	15,366	1,102	7.7	33,941
売上総利益	3,547	3,116	△430	△12.1	
営業利益	1,951	1,254	△697	△35.7	2,261
経常利益	2,043	1,325	△717	△35.1	2,087
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,397	895	△501	△35.9	1,419

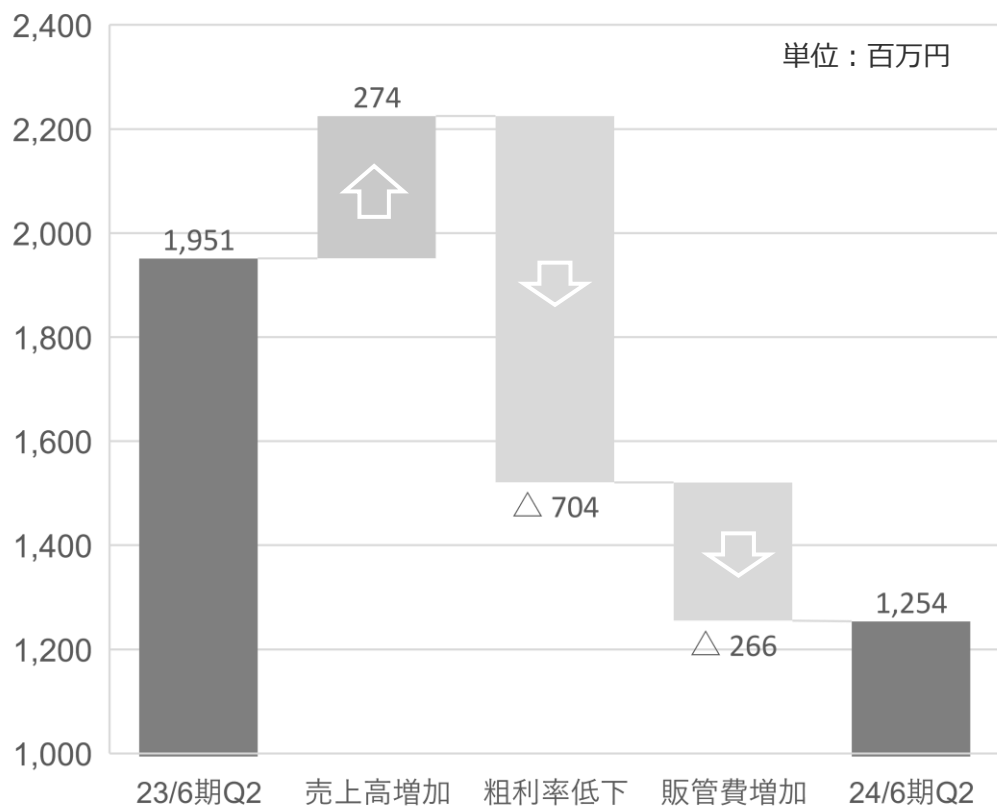


※ 詳細はP.42-をご覧ください

## 営業利益増減要因分析（連結）

コロナ禍後の需要拡大により売上が拡大し利益が増加するも、相場やコスト増の影響で粗利率が低下  
事業拡大・強化を進める海外卸売事業等で販管費が増加し、営業利益は前年同期より697百万円減少した

### 要因別営業利益増減



### 増減補足説明

#### 売上高増加による利益増

前年同期比+274

- 売上高が1,102増加したことにより、営業利益が274増加

#### 粗利率低下による利益減

前年同期比△704

- いくら・筋子相場の下落、養殖コストの増加などで利益率が低下した結果、粗利704減少

#### 販管費増加による利益減

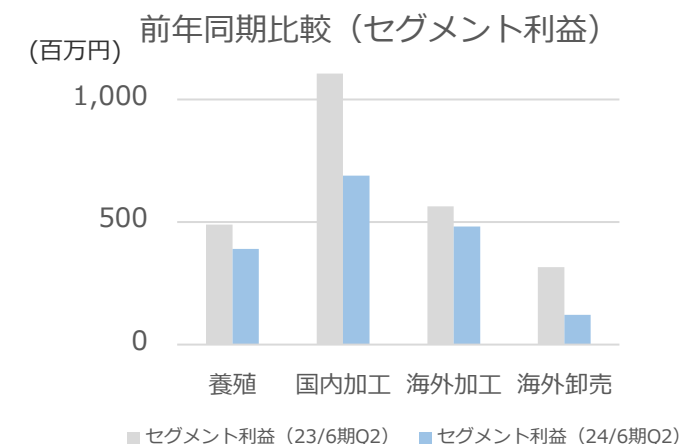
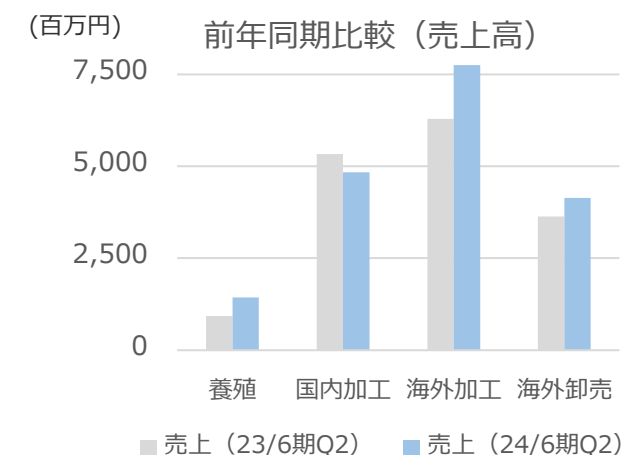
前年同期比△266

- 事業拡大・強化を行う海外卸売事業、養殖事業を中心に販管費（人件費、減価償却費、保管料など）が増加した結果、営業利益が266減少

## セグメント情報サマリー

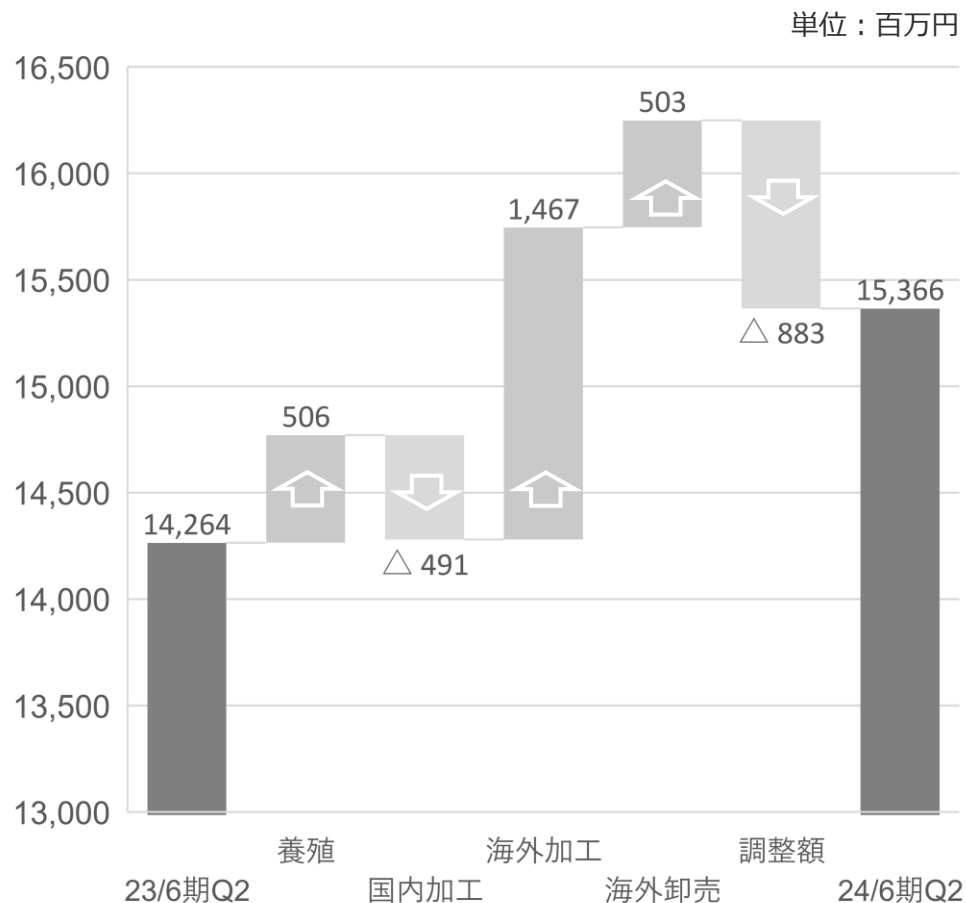
(単位：百万円)

	23/6期Q2	24/6期Q2	増減	増減率(%)
<b>売上高</b>	<b>14,264</b>	<b>15,366</b>	<b>1,102</b>	<b>7.7</b>
養殖	930	1,436	506	54.4
国内加工	5,331	4,839	△491	△9.2
海外加工	6,285	7,753	1,467	23.4
海外卸売	3,634	4,137	503	13.9
調整額	△1,917	△2,801	△883	—
<b>セグメント利益</b>	<b>1,951</b>	<b>1,254</b>	<b>△697</b>	<b>△35.7</b>
養殖	490	391	△98	△20.1
国内加工	1,106	690	△415	△37.5
海外加工	565	482	△83	△14.7
海外卸売	317	122	△194	△61.5
調整額	△527	△433	94	—



## セグメント別売上高増減

### セグメント別売上高増減



### 増減補足説明

#### 養殖

前年同期比+506

- 国内で期首繰越在庫が前年同期に比べ増加し、かつ前倒しして売られたこと、海外で単価が高いいからの販売が増加したことにより売上高が増加した。

#### 国内加工

前年同期比△491

- 前期後半から魚卵の市中在庫が超過状況。そのため販売価格が下落したが、市中在庫超過の調整過程で販売数量的には伸びずに売上高が減少。

#### 海外加工

前年同期比+1,467

- 世界的にサーモン相場の高止まりが続く中、国内は価格面が好調に推移、海外はコロナ禍後の市場回復もあり堅調に推移。なお、増加分にはグループ内売上も多く含まれており、これは調整額で消去されるため、連結PLに寄与する外部売上の増加は約8億円。

#### 海外卸売

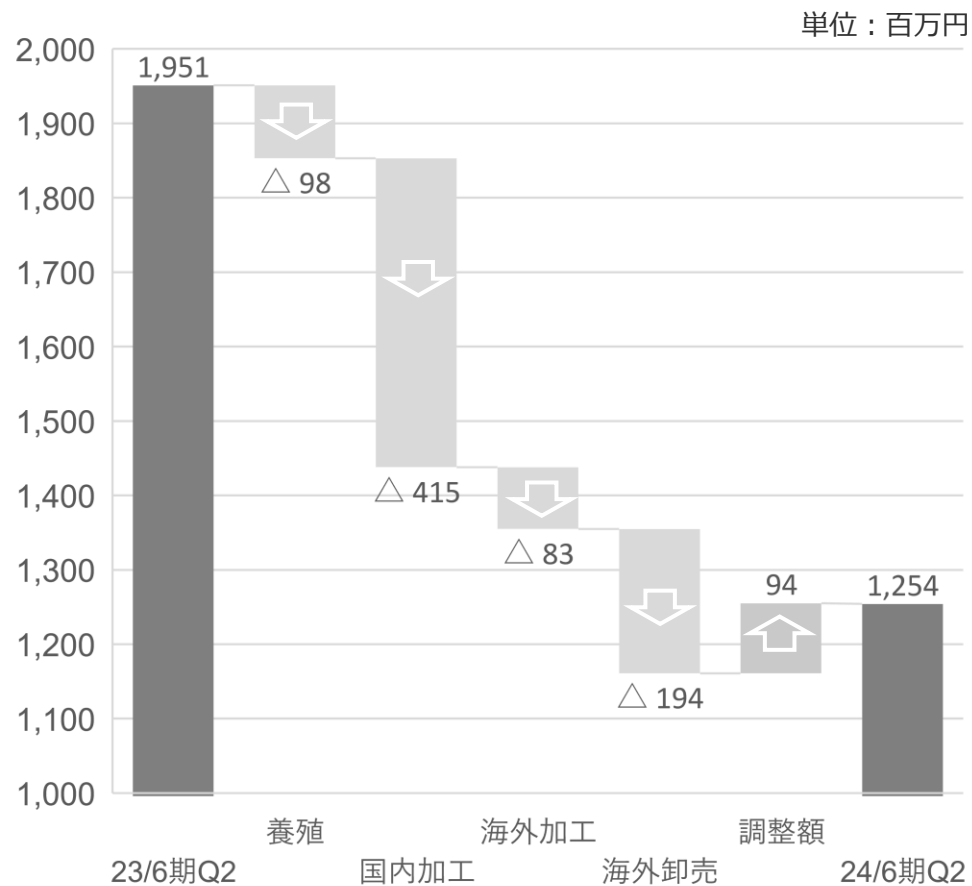
前年同期比+503

- 引き続き需要拡大傾向が継続。



## セグメント別営業利益増減

### セグメント別営業利益増減



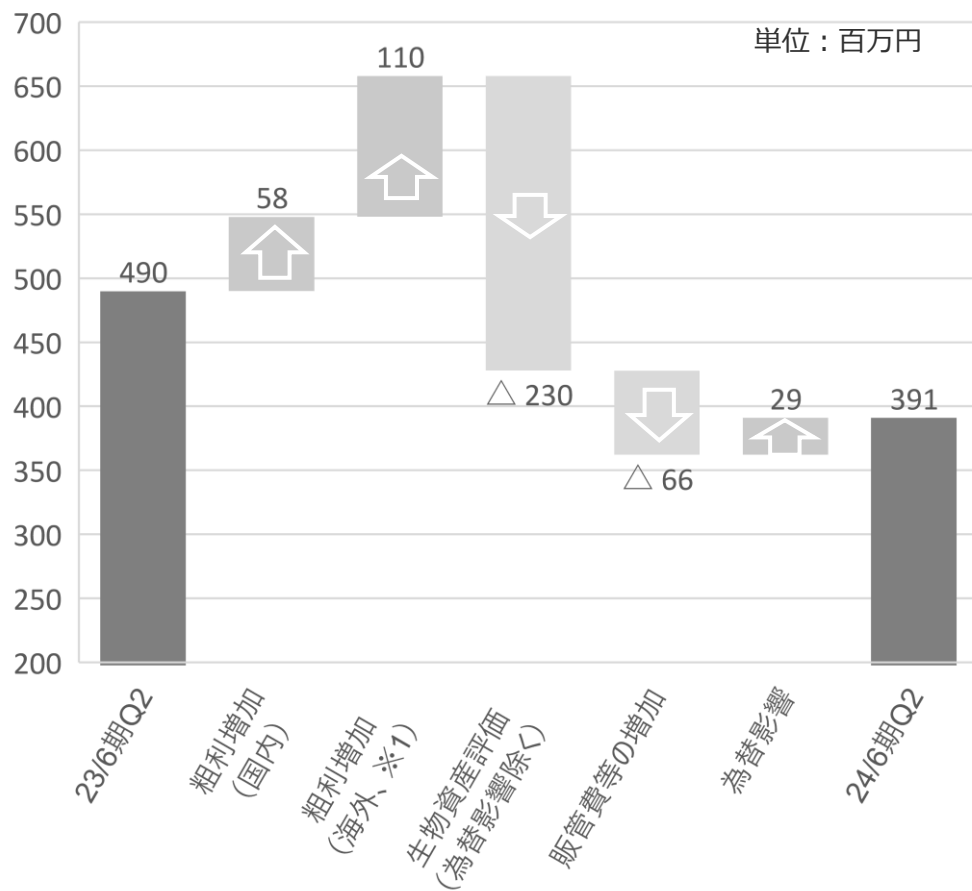
### 増減補足説明

- 養殖** 前年同期比△98
  - 生物資産評価益が減少した影響などにより減益。
- 国内加工** 前年同期比△415
  - 前期までの高騰相場からの調整局面。前期仕入れの高単価在庫と調整過程にある販売価格がぶつかり、利益率が大幅に低下。
- 海外加工** 前年同期比△83
  - 前期は値上げ先行もあり高利益率。当期は原価高の価格転嫁が十分でなく利益率減。
- 海外卸売** 前年同期比△194
  - 事業拡大・強化に伴うヒト・モノ関連費用の増加などで減益。
- 調整額** 前年同期比+94
  - 在庫の未実現利益控除額の増減。

## 要因別セグメント利益増減（養殖事業）

見込養殖コストの上昇による生物資産評価益の減少等により、利益は98百万円減少した

### セグメント利益増減



※1 生物資産の公正価値評価と為替影響除く

### 増減補足説明

#### 粗利増加（国内）

前年同期比 + 58

- 水揚げは4-6月のため、Q2現在は前期に水揚げした冷凍在庫を販売中。前期末の繰越冷凍在庫の前倒し販売が進み粗利増加。

#### 粗利増加（海外）

前年同期比 + 110

- 単価・利益率が高い魚卵について、販売早期化等により利益が拡大。

#### 生物資産評価

前年同期比 Δ230

- 見込販売価格の上昇によるプラス影響があるものの、見込養殖コストの上昇等から生物資産評価益は減少。

#### 販管費増減

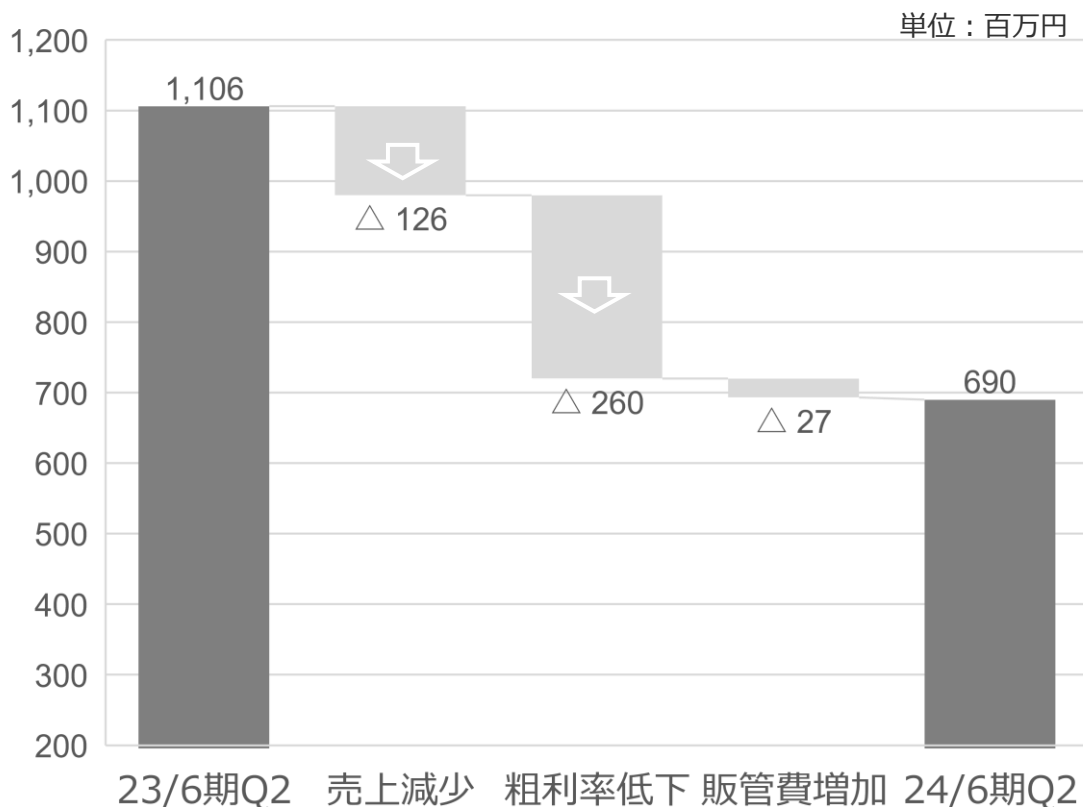
前年同期比 Δ66

- 海外養殖での管理人件費や償却費増の影響で販管費増。

## 要因別セグメント利益増減（国内加工事業）

前期の高騰相場からの市場在庫・価格の調整過程にあり、売上が減少するとともに利益率が低下し、セグメント利益は前年より415百万円減少した

### セグメント利益増減



### 増減補足説明

#### 売上高減少による影響

前年同期比△126

- 前期に魚卵価格が高騰し消費がにぶっていた状況で2022年秋鮭が豊漁となり市中在庫が大きく増加した。そのため販売価格が下落したが、市中在庫超過の調整過程で販売数量的には伸びずに売上高が減少。これにより、売上総利益は△126。

#### 粗利率低下による影響

前年同期比△260

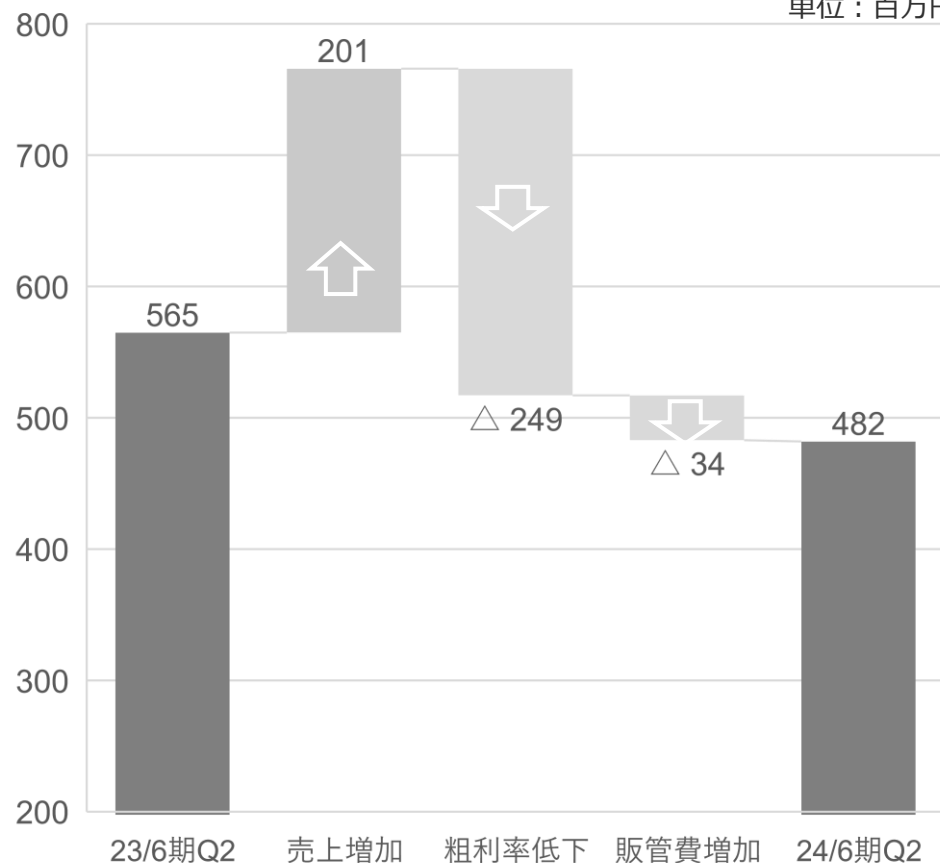
- 国内加工事業では、魚卵収穫時期の関係上、主に秋に1-1.5年分の原料仕入を行う。そのため、仕入と販売のタイムラグが大きく、相場の変動局面では販売価格が先に低下し、利益率が低下するというサイクルが生じる。新物仕入により仕入価格の低下も生じたものの、当Q2はこのサイクルにより前年同期に比べ粗利率が大幅低下。

## 要因別セグメント利益増減（海外加工事業）

主力のオカムラ食品工業では販売価格上昇により国内外で売上は増加するも、原料単価の上昇の方が大きく利益率は低下。販管費増もあり、セグメント利益は83百万円減少した

### セグメント利益増減

単位：百万円



### 増減補足説明

#### 売上高増加による影響

前年同期比+201

- 世界的にサーモン相場の高止まりが続く中、国内は価格面が好調に推移、海外はコロナ禍後に市場が急速に回復・拡大し販売好調。

#### 粗利率低下による影響

前年同期比△249

- 前期は相場高騰過程で値上げ先行により利益率が上昇、当期も高値相場は継続しているが前期に比べ当期は十分な価格転嫁が困難になり、全体の粗利率が低下。

#### 販管費増加による影響

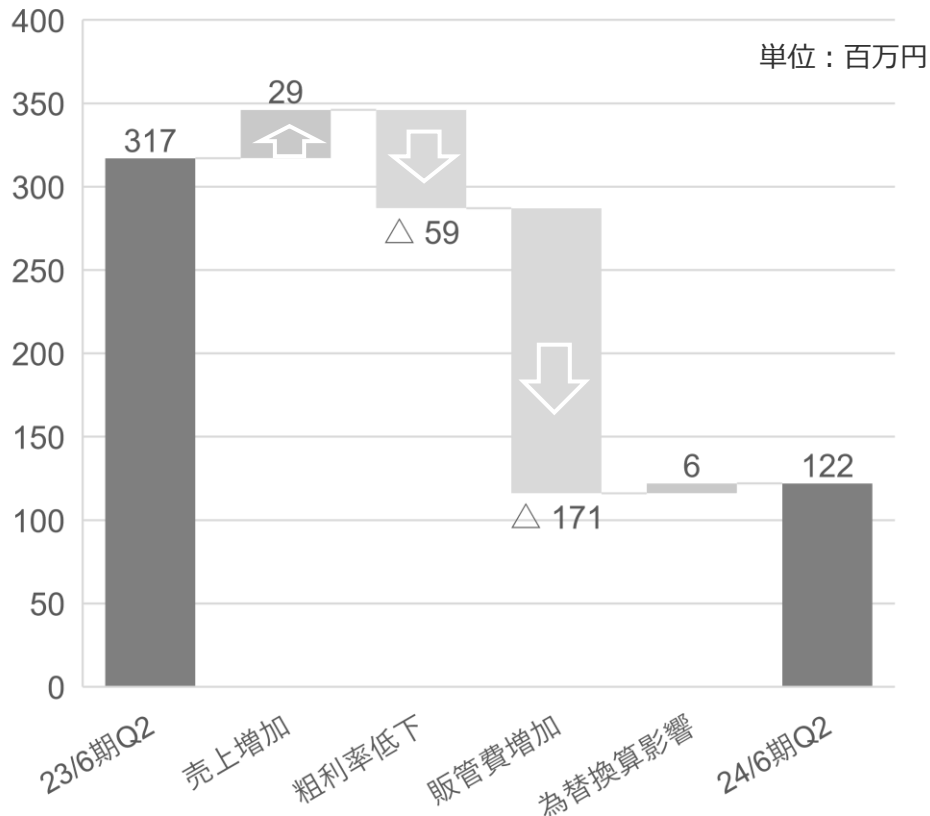
前年同期比△34

- 販売数量増加に伴い倉庫関連費用などが増加。

## 要因別セグメント利益増減（海外卸売事業）

コロナ禍後の東南アジアの需要拡大により売上は増加するも、事業強化・拡大に伴う人件費、倉庫費用、償却費増加等によりセグメント利益は194百万円減少した

### セグメント利益増減



### 増減補足説明

#### 売上高増加による影響

前年同期比+29

- アジア市場では、引き続き需要拡大傾向が継続。

#### 粗利率低下による影響

前年同期比△59

- 利益率の高いスポット取引がなくなったことなどで全体の粗利率が低下。

#### 販管費増加による影響

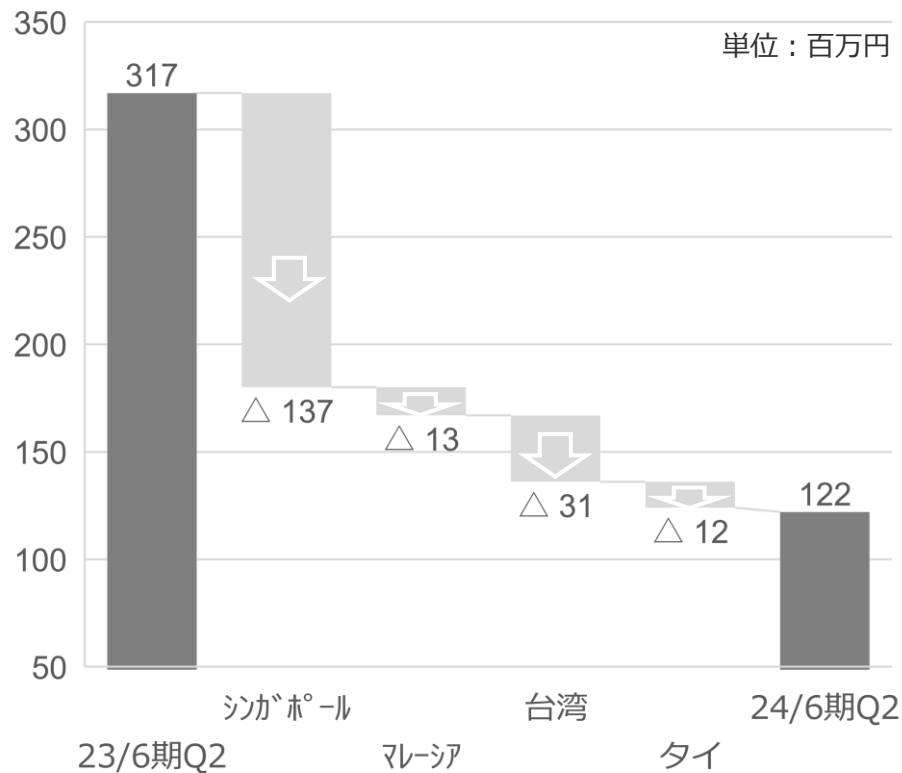
前年同期比△171

- 事業強化・拡大に伴う人件費、倉庫費用、償却費増加による影響。

## 地域別セグメント利益増減（海外卸売事業）

事業拡大・強化に伴いヒト・モノ関連費用が増加し減益

### セグメント利益増減



### 増減補足説明

Okamura Trading Singapore（シンガポール） 前年同期比△137

- 販売はコロナ禍後の海外向けを中心に順調に推移。
- 一方で、事業拡大に伴う人件費、倉庫費用、償却費増加等に伴い販管費増。

Okamura Trading Taiwan（台湾） 前年同期比△31

- 前期Q1には大口のスポット販売あり当期は実質2年目に相当し、営業活動が進展。配送エリア拡大などに伴うコストが増加

## 貸借対照表増減サマリー

(単位：百万円)

資産	2023年6月末	2023年12月末	増減
<b>流動資産</b>	<b>22,581</b>	<b>35,118</b>	<b>12,536</b>
現金及び預金	2,062	6,786	4,724
売上債権等	3,235	4,308	1,072
棚卸資産	14,785	20,110	5,324
その他	2,498	3,912	1,414
<b>固定資産</b>	<b>7,529</b>	<b>8,952</b>	<b>1,423</b>
有形固定資産	7,049	8,481	1,432
無形固定資産	66	66	0
投資その他の資産	414	404	△9
<b>資産合計</b>	<b>30,111</b>	<b>44,070</b>	<b>13,959</b>

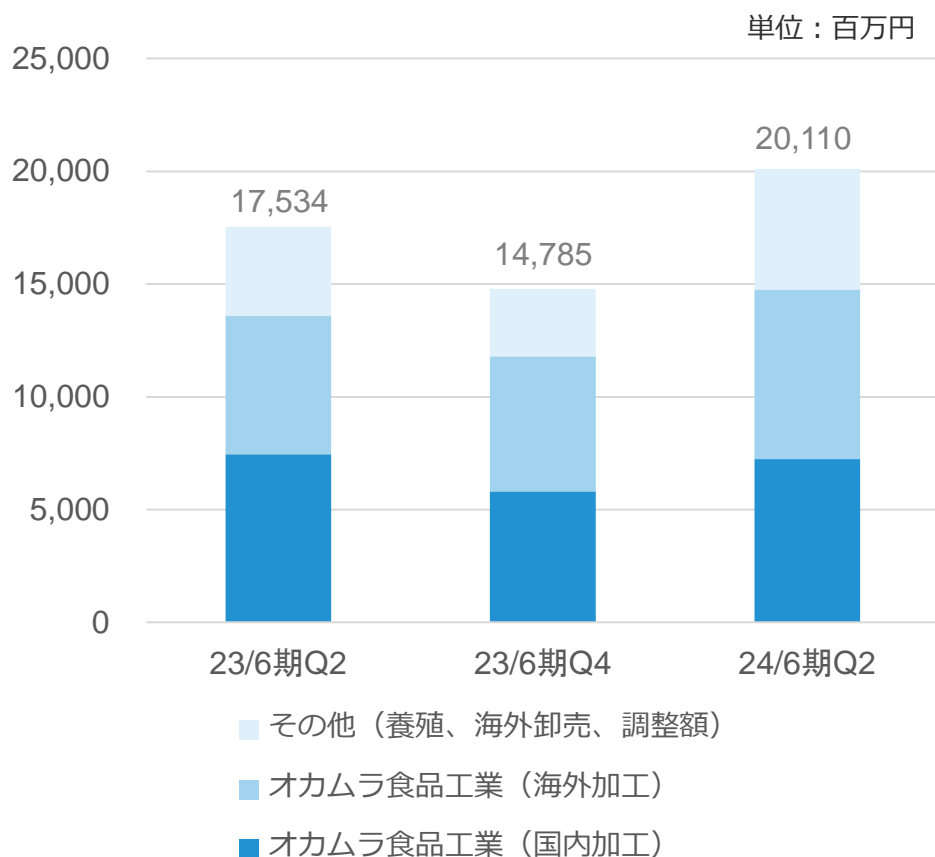
負債	2023年6月末	2023年12月末	増減
<b>流動負債</b>	<b>15,439</b>	<b>25,817</b>	<b>10,378</b>
仕入債務	1,067	1,638	570
借入金	10,947	19,565	8,618
その他	3,424	4,613	1,189
<b>固定負債</b>	<b>4,703</b>	<b>5,225</b>	<b>522</b>
借入金	3,422	3,411	△10
その他	1,281	1,813	532
<b>負債合計</b>	<b>20,143</b>	<b>31,043</b>	<b>10,900</b>
<b>純資産</b>			
<b>純資産合計</b>	<b>9,968</b>	<b>13,027</b>	<b>3,059</b>

▶ 主なトピック：季節変動を主要因とする棚卸資産増（P.40参照）、上場時の公募増資、設備投資の進捗（P.41参照）

## 棚卸資産増減内容

国内加工事業、海外加工事業の仕入シーズンと養殖事業の評価替・魚の生育等により、棚卸資産は前期末より5,324百万円増加した

### 棚卸資産残高推移



### 増減補足説明

オカムラ食品工業（国内加工） 前期末比+1,436

- 漁獲時期の関係上、国内加工事業の原料（魚卵）仕入は9月～12月に集中。Q2は仕入シーズンの影響で在庫が膨らむ。

オカムラ食品工業（海外加工） 前期末比+1,525

- 海外加工事業の原料はサーモンとサバ。サーモンの仕入は通年行われる。サバはQ2で年に一度の仕入が生じるため増加。

その他 前期末比+2,362

- 海外養殖ではQ1で生物資産の公正価値評価により評価益計上。加えて、水揚げに向けて魚の生育に伴う養殖魚簿価の増加等により、養殖事業で前期末比+2,380。



## 設備投資の進捗状況

- 当社の成長戦略である国内養殖量の拡大に向けて、ボトルネックとなっている中間養殖場への設備投資を計画。現状においては予定通り進捗
- 日本サーモンファーム(株)の今別中間養殖場第2・第3水槽は23年9月に工事完了し、10月に稼働開始
- これにより**成魚9百トン程度の増産**が可能となる（通期見込に反映済み）

### 今別中間養殖場第2・第3水槽（日本サーモンファーム）



今別中間養殖場の水槽	想定中間魚生産量 (t)	想定成魚生産量 (t)	稼働時期
第2水槽	40	168	2023年10月
第3水槽	180	756	2023年10月
計	220	924	

#### 今別中間養殖場のココがすごい！

- 河川を利用しないので
  - 水利権が不要で事業展開がしやすい
  - 大雨等による河川氾濫の影響を受けるリスクが低い
  - 河川への環境負荷がなく、環境配慮型養殖が可能（ASC認証の取得がしやすい）

## Ⅲ. 2024年6月期 通期業績見通し



## 通期業績予想サマリー

2023年9月27日に発表した通期業績予想を以下の通り変更

- 修正の主な理由は国内加工事業の利益率改善。
- 前回発表予想においては、前期までの歴史的な高騰相場からの調整過程に入るとの認識の下、当期は利益率の大幅低下を想定。実際に調整局面に入り、利益率は低下している。
- しかしながら、原料仕入価格が想定以上に下落して原料の移動平均単価を押し下げた一方で、販売価格の下落は当初見込んでいたほどの下落幅とはならず、今回の業績修正に至った。

### 【連結】

(単位：百万円)	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想 (A)	32,598	1,949	1,775	1,234	163円78銭
<b>今回修正予想 (B)</b>	<b>33,941</b>	<b>2,261</b>	<b>2,087</b>	<b>1,419</b>	<b>181円93銭</b>
増減額 (B-A)	1,342	312	312	185	—
増減率	4.1%	16.0%	17.6%	15.0%	—
ご参考： 前期実績 (2023年6月期)	28,939	3,187	3,544	2,389	354円82銭

## 通期業績予想サマリー

### 【個別】

(単位：百万円)	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	23,454	608	383	50円90銭
<b>今回修正予想 (B)</b>	<b>22,786</b>	<b>801</b>	<b>422</b>	<b>54円18銭</b>
増減額 (B-A)	△668	192	39	—
増減率	△2.8%	31.7%	10.3%	—
ご参考： 前期実績 (2023年6月期)	20,890	1,809	1,111	165円07銭

## セグメント別

(単位：百万円)	(参考) 前期実績	2024/6期 前回発表予想 (a)	2024/6期 今回修正予想 (b)	(b-a)
<b>売上高</b>	<b>28,939</b>	<b>32,598</b>	<b>33,941</b>	<b>1,342</b>
養殖	5,680	6,968	7,291	323
国内加工	8,715	8,743	8,262	△ 481
海外加工	12,623	14,987	15,839	851
海外卸売	7,068	8,369	8,896	526
調整額	△5,148	△ 6,470	△ 6,348	122
<b>営業利益</b>	<b>3,187</b>	<b>1,949</b>	<b>2,261</b>	<b>312</b>
養殖	813	906	858	△ 47
国内加工	1,462	749	1,095	345
海外加工	1,085	738	798	60
海外卸売	518	231	244	12
調整額	△692	△ 677	△ 734	△ 57

## 主な修正理由（営業利益）

### 養殖事業

前回予想対今回修正予想△47

- 下記国内加工事業の魚卵原料価格低下に呼応し、海外養殖の魚卵販売単価を引き下げた影響で、利益は減少した。

### 国内加工

前回予想対今回修正予想+345

- 相場調整局面のなか、原料仕入価格は大幅に下がり、原料の移動平均単価を押下げた一方で、売価の方は仕入れ値ほど下がっていない。結果として、利益率が当初計画値よりも改善された。

### 海外加工

前回予想対今回修正予想+60

- 当社 +158
- 利益率改善。主要因は販売価格の上昇。原料価格も上がっているが、当期の原価単価にはまだそれほど影響していない。
- Okamura Trading Myanmar △102
- 不測の事態を想定し、政策的に当初計画よりも稼働率を抑えている。結果として、固定費負担が計画よりも増加し、利益の押下げ要因となっている。

### 海外卸売

前回予想対今回修正予想+12

- 予算策定時の為替レートの変化による換算影響（円安に変化）

## 株主還元

配当予想については前回発表予想からの変更はなし

➤ 今後は、株主資本配当率等を参考に安定した配当を継続して実施する方針です。

	年間配当		
	第2四半期末	期末	合計
前回発表予想 (A)	17円00銭	17円00銭	34円00銭
<b>今回修正予想 (B)</b>	<b>17円00銭</b>	<b>17円00銭</b>	<b>34円00銭</b>
増減額 (B-A)	—	—	—
ご参考： 前期実績 (2023年6月期) ※	—	9円00銭	9円00銭

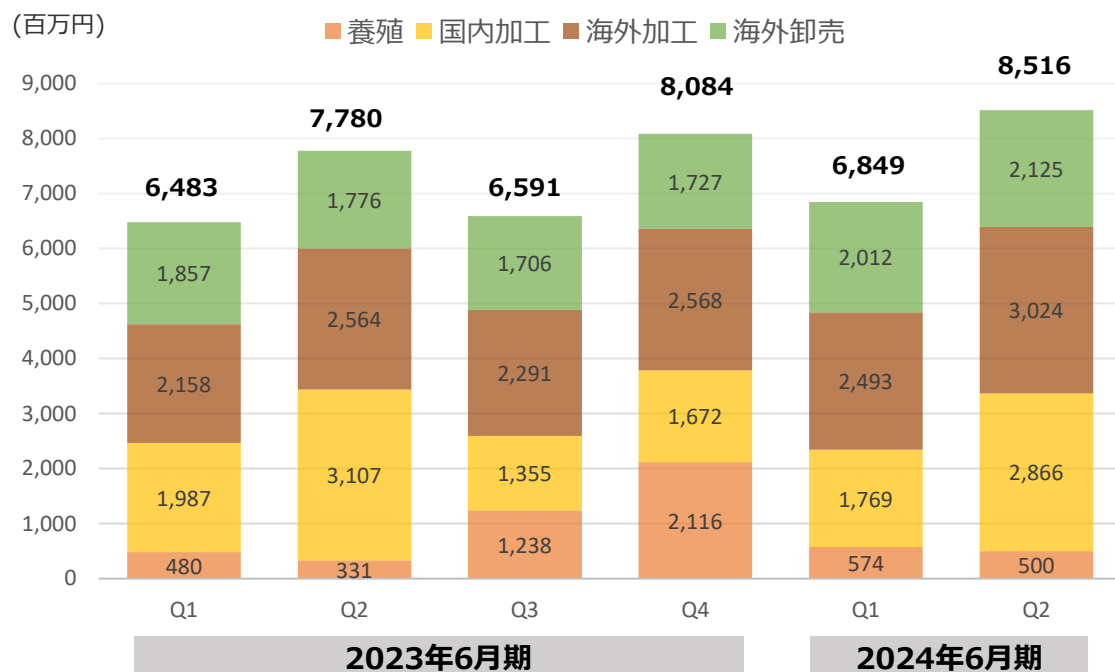
※ 2023年7月29日付で普通株式1株につき30株の割合で株式分割を行っていますが、上記は当該株式分割後の金額に換算して表示しております。

## IV. 参考資料



## 四半期ごとの季節変動について（売上高）

### ロ セグメント別 四半期推移（外部顧客への売上高）



### <各セグメントの主な季節要因>

#### ○養殖事業

水揚げ時期に売上が集中する傾向があります。水揚げ時期は国内養殖が4～6月（第4四半期）、デンマークの養殖が10～12月（第3四半期・決算日差異あり）になります。

#### ○国内加工事業

取扱っている製品（いくら、筋子、数の子）の性格上、年末商戦（第2四半期）に売上が集中、年始はその反動で売上が落ち込むという傾向があります。

#### ○海外加工事業

特に大きな季節要因はありません。

#### ○海外卸売事業

特に大きな季節要因はありません。

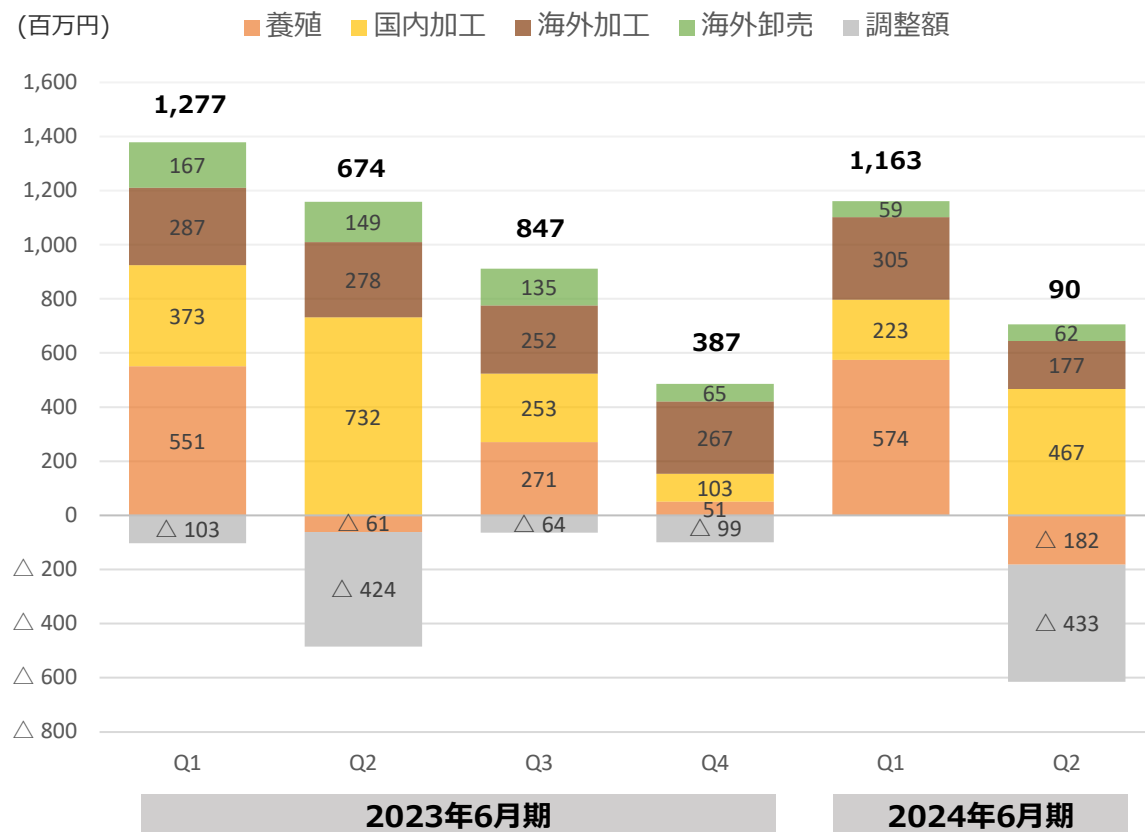
(注)

上記は例年における主な季節要因を説明したものです。実際の業績は他の様々な要因によって変動することをご承知おき下さい。



## 四半期ごとの季節変動について（セグメント利益）

### □セグメント別 四半期推移（セグメント利益）



### <各セグメントの主な季節要因>

#### ○養殖事業

##### Q1

国内・海外ともに水揚げ時期ではありませんが、デンマーク子会社（IFRS適用）の年間販売利益の見込額がQ1に一括で計上されます。

##### Q2

国内・海外ともに水揚げ時期ではないため、販売利益は少なくなる傾向があります。

##### Q3

デンマーク子会社の水揚げ時期にあたります。デンマーク子会社の販売利益の見積差額（実績値との差）はこの時期に多く計上される傾向があります。

##### Q4

国内養殖の水揚げ時期にあたります。国内養殖の販売利益はこの時期に多く計上される傾向があります。

#### ○国内加工事業/海外加工事業/海外卸売事業

前頁参照

#### ○調整額

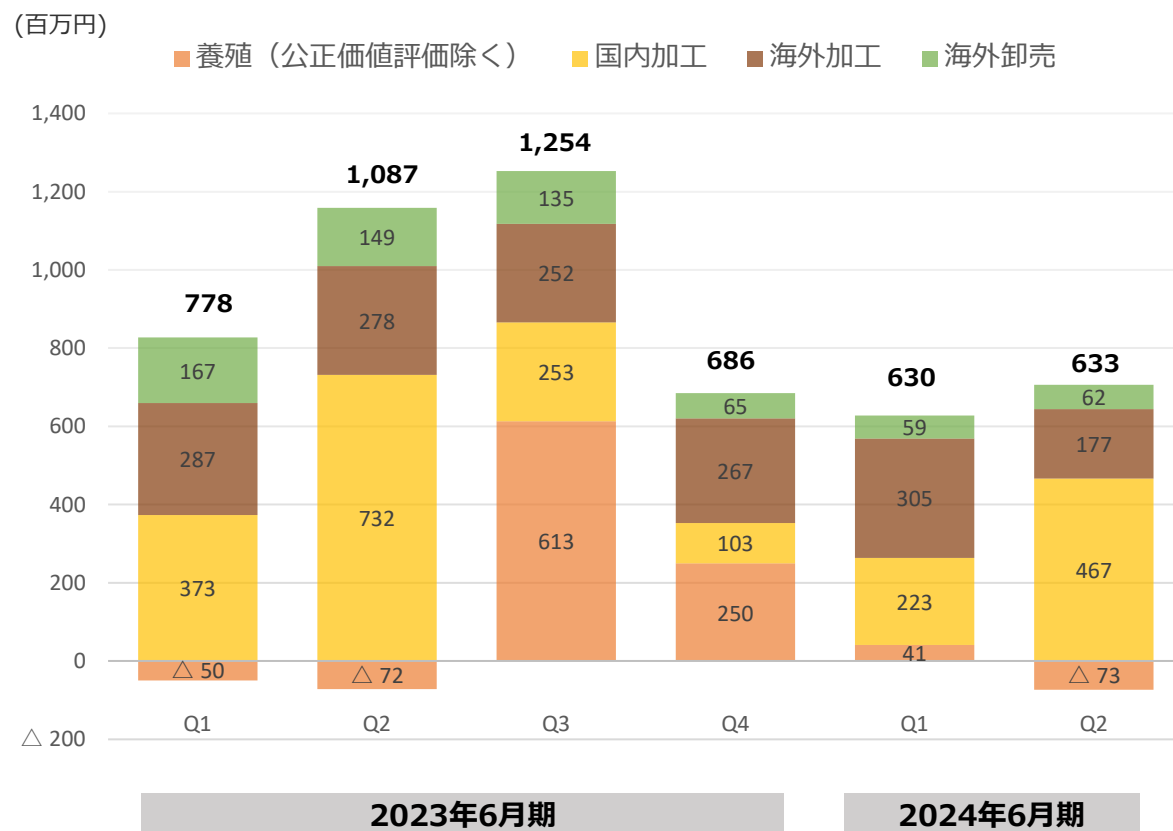
全社費用に加え、グループ内取引によって生じた棚卸資産未実現利益の控除を含みます。これはQ2に多く計上される傾向があります。

(注)

上記は例年における主な季節要因を説明したものです。実際の業績は他の様々な要因によって変動することをご承知おき下さい。

## 四半期ごとの季節変動について（IAS41号に基づく公正価値評価損益を除いた場合のイメージ）

### ロ セグメント別 四半期推移（調整額控除前セグメント利益）



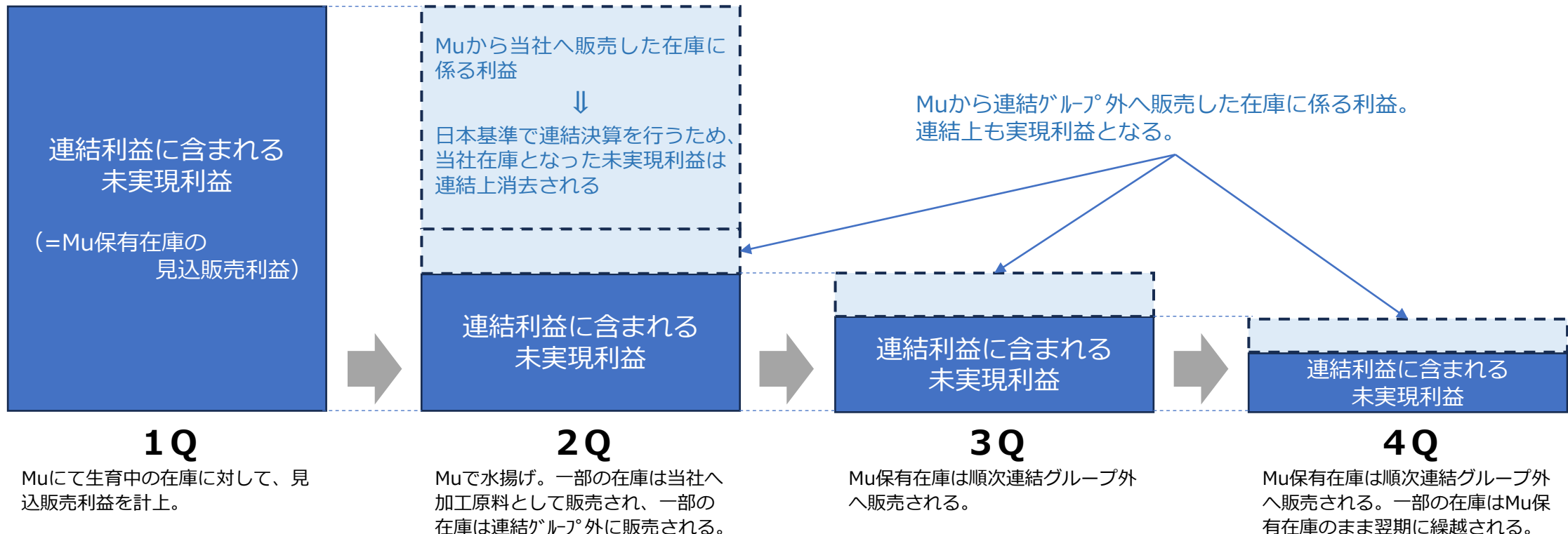
公正価値評価損益の影響を除いた季節変動（日本の会計基準で処理した場合に近似する）は左記のとおりです。

(注)

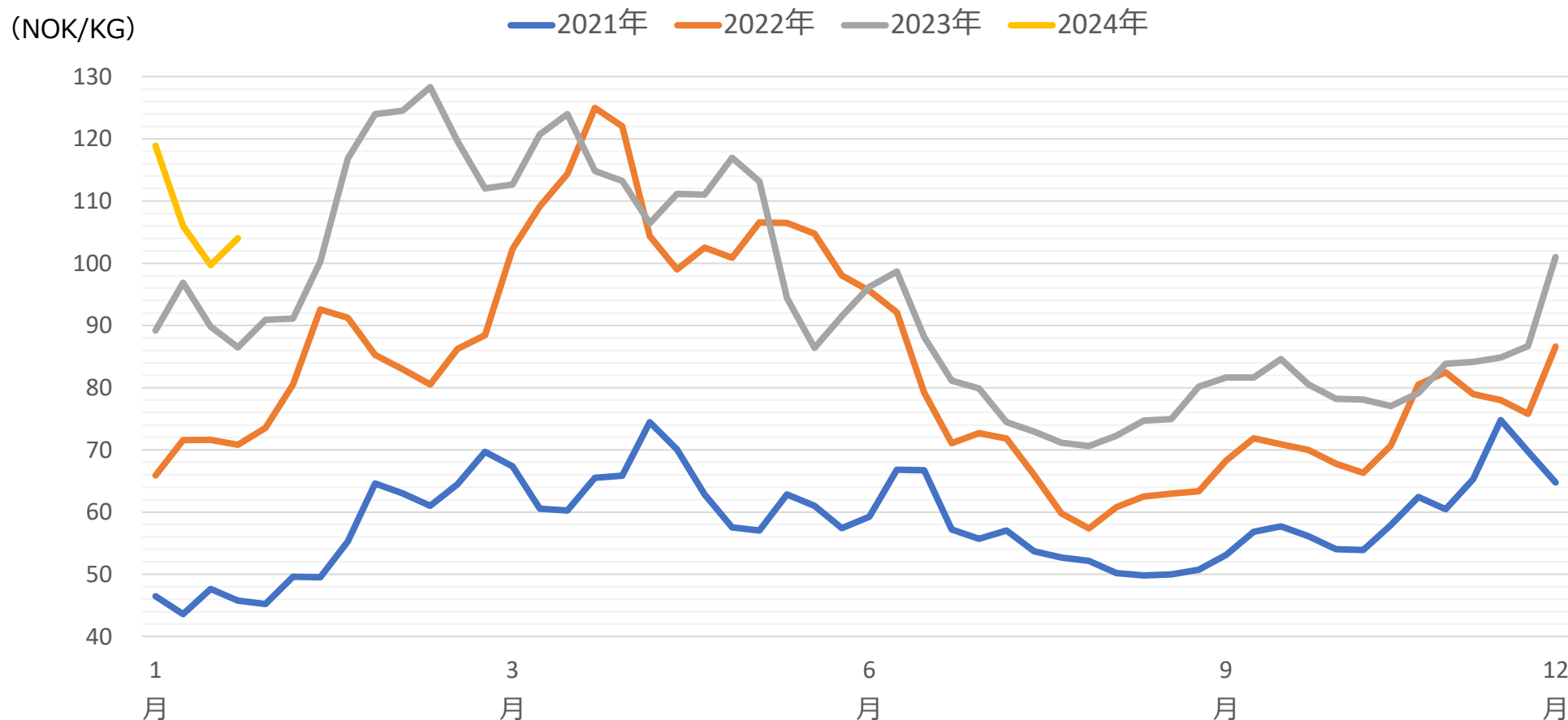
- セグメント利益の調整額（全社費用、棚卸資産に含まれる未実現利益の消去、など）を控除する前の数値です。
- 左記の試算は、監査法人のレビューは受けておりません。

## 養殖事業を行うデンマーク子会社における未実現利益の計上

- 養殖事業を行うデンマーク子会社のMusholm社（以下「Mu」）は、国際財務報告基準（IFRS）を採用しており、IAS第41号「農業」に従った処理を行っています。すなわち、保有在庫（養殖魚）を公正価値により評価するため、いわゆる未実現利益（見込販売利益）が計上されることとなります。
- 未実現利益は、基本的にはMuで保有する在庫に対してのみ計上されます。
- この処理はIFRS特有の処理です。日本の会計基準の観点からすると、当該未実現利益分だけ、利益が嵩上げされた形になります。そのため、日本基準で作成された決算と比較するには、この未実現利益を控除して考える必要があります。

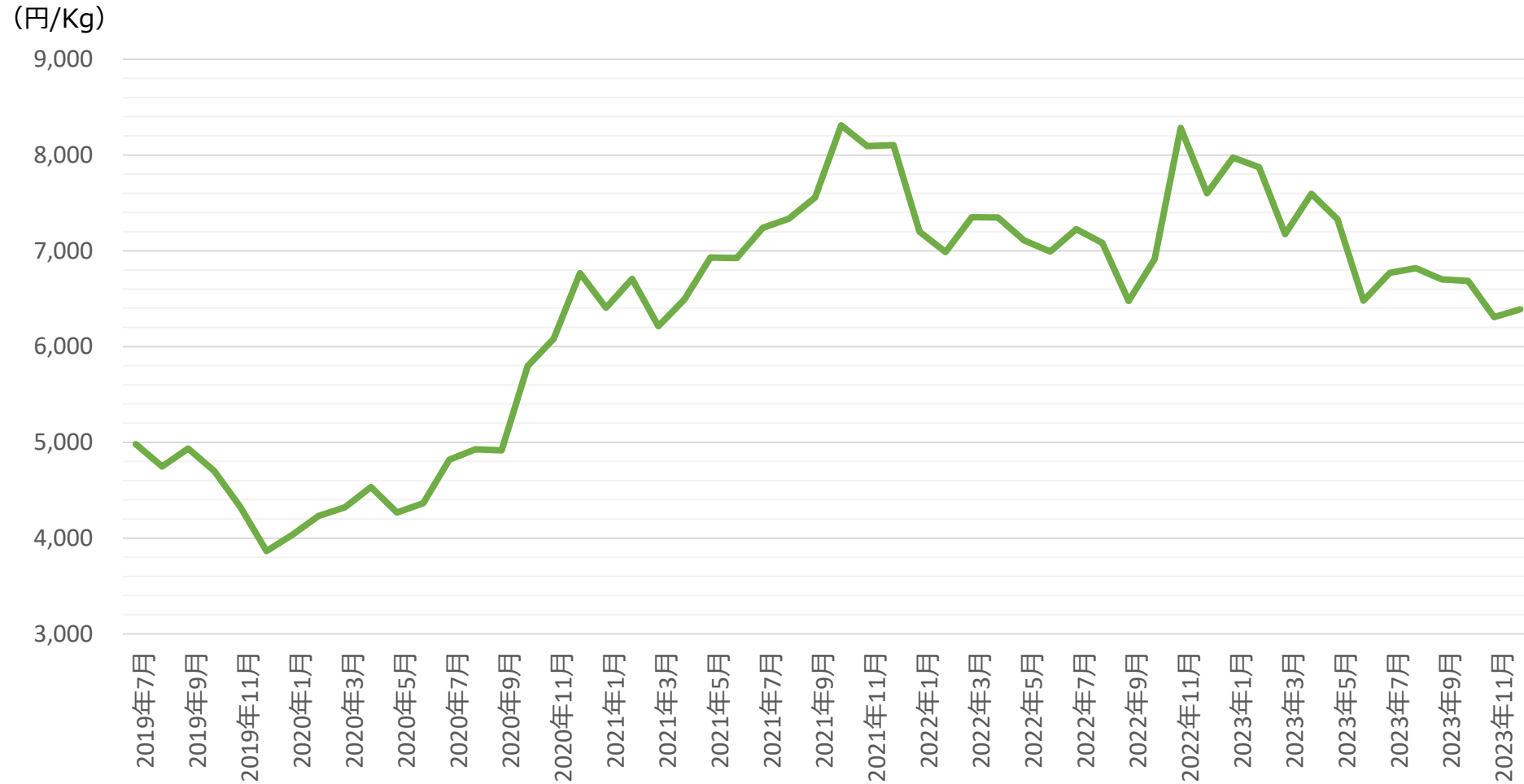


## アトランティックサーモンのスポット価格（オスロ市場）



※ 上記グラフは、当社グループが養殖しているサーモントラウトとは異なる魚種であるアトランティックサーモンのオスロ市場におけるスポット価格を表示しています。サーモントラウトにはこのような指標はないため、魚種は異なるものの、当社グループでは便宜的に当指標を予算策定や市場トレンドを測る際の参考指標として利用しています。なお、実際の取引価格は国内需給や輸送コストなど様々な要因に基づいて決定されます。あくまで当指標は一参考指標としてご覧いただく必要がある点にご留意ください。

## 豊洲市場のいくら平均価格推移



出展) 東京都中央卸売市場・市場統計情報

## ESGへの取組み

ESGへの取組みは『統合報告書2023』をご覧ください

<https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS06465/bcc5d563/38f3/4887/b94e/f619e1150625/20240131131458198s.pdf>

当社グループでは、2022年版より統合報告書を発行し、今回が2回目の発行となります。統合報告書を通じて、当社の事業内容、存在意義、可能性、企業価値向上に向けた取組みなどを、多くのステークホルダーの皆様にお伝えできればと考えています。

今回は、以下のインタビュー記事が見どころの一つとなっています。

- ・ IPOを経てのトップメッセージ
- ・ デンマークの養殖子会社社長へのインタビュー
- ・ 国内の養殖子会社社長へのインタビュー
- ・ 社外取締役へのインタビュー

当社のご理解いただく上での一助となれば幸いです。

当社は今後も、コーポレートサイトや統合報告書などを通じた適切な情報開示や、ステークホルダーの皆様との対話を通じて、企業価値の向上に努めてまいります。



本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、経済動向、他社との競争状況、商品相場動向など潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化などの様々な要因により、実際の業績は言及又は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

株式会社 **オカムラ** 食品工業